

2022年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	うえだ けんじ		職 位	講 師	学 位	修士（文学） 修士（メディア表現）
教員氏名	植田 憲司					
アルファベット表記						
専門分野		美学美術史学、情報文化論、博物館学				
研究課題	テーマ	メディアテクノロジー環境におけるメディア表現に関する研究				
	概要	従来の美術史、芸術学的手法の研究とともに、メディア考古学のアプローチからの研究、また新しいメディア表現に関わる作品の保存や修復について研究している。また、展覧会キュレーションの実践も行っている。				
本年度 研究業績	研究費	総額：320,000円 内訳：個人研究費 220,000円 / 科学研究費 円 そ の 他 みらい授業研究費 100,000円				
	研究テーマ	京都における占領期カラー写真の研究				
	経過と到達点	占領期のカラー写真についての調査を行い、新たな写真その周辺資料を収集した。その調査の成果については、昨年度に引き続き、京都文化博物館で展覧会として開催予定で、書籍としても出版の予定がある。				

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					

⑦学会での 口頭発表、討 論者(ディス カッサント)	タイムベースト・ メディア作品とコ ンサヴァターの役 割	2022年9 月8日	単独	経営・情報学会研究 報告会 2022 年度 第1回	映像やコンピュータなど新しい メディアを使用した芸術作 品の保存や修復におけるコン サヴァターの役割について検 討する。
-------------------------------------	---------------------------------------	---------------	----	---------------------------------	--

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書	『続・戦後京都の色は アメリカにあった』 (予定)	2023年2 月予定	小さ子社	アメリカに残されていた占領期の 京都を写したカラー写真群を調査、 収集し、カラーで写された京都の姿 を紹介する。多彩な切り口で占領期 写真に迫るエッセイ・論文ともに写 真とその背景を紹介、検討する。
	『持続可能な社会に 向けて』(仮題)	2023年3 月予定	晃洋書房	第2章「ミュージアムは持続可能か -保存という機能の困難-」を分担執 筆。
⑨単著書・ 単訳書				

(3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)	芸術と社会—近代に おける創造活動の諸 相(代表 高階絵里加)	2020年4 月 から 2023年3 月	京都大学人文科学研 究所 共同利用・共 同研究拠点 共同研 究プロジェクト	本研究会は、美術を中心に、歴史、 文学、映像、デザイン等の分野にお ける、広い意味での近代における芸 術作品・芸術家と社会の多様な結び つき的一端を明らかにすることを めざす。
⑬科学研究 助成事業(日 本学術振興 会)申請	申請中			

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	情報と文化 情報処理概論 情報管理論	コンピュータグラフィックス フィジカルコンピューティング 地域創生論
	演習	基礎ゼミナール プロジェクト演習 I	ゼミナール I プロジェクト演習 II プロジェクト演習 IV
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目		
	<ul style="list-style-type: none"> 講義科目では、スライド画像を活用して講義内容を理解しやすくし、また、テーマに関する動画や映画の一部を授業内で紹介することで、講義のテーマに親しみを持てるように配慮している。 講義でのテーマに関連するスケッチ、フィールドワーク課題を課すことで、学生が自身の手や足、目を使ってひとつのテーマを理解するよう促している。 PCでのソフトウェア、ハードウェアの操作技術の習得を目的にする講義では、それらのソフトウェア等に関わる根本的な概念や背景にある文化について概説し、学生がより深い理解に至るよう工夫している。 		
	◆ 演習科目		
	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト演習 I・II・IV では、学外でのまちづくり活動を行うが、事前にその活動に関する基本的な社会的な動向、考え方などを講義している。また、活動後はその活動の意義・位置づけの理解を促すための振り返りを行なった。 ゼミナールでは、哲学者やデザイナーによるメディア（映像、インターネット、印刷メディア等）に関するエッセイや論文を読み、それらの特性を理解した上で、印刷メディアでのコンテンツ制作（企画・編集・デザイン）を行い、理論と実践の両面からメディアへの理解を促した。 		
実習科目			
◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）			

(1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

(1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	「令和4年度日本文化のグローバル展開の推進に資する「新たな価値」の発信に係る準備事業」企画審査委員（文化庁） 「令和4年度文化庁メディア芸術祭地方展の企画・運営」に係る企画審査委員（文化庁）
④委員・アドバイザー 上記以外	第18回京都現代写真作家展実行委員（京都府） 京都府 職員ふれあいフェスタ2022（写真の部）審査員（京都府） 第69回桑名市民展写真部門審査委員（桑名市）

(2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	日本記号学会 理事

(3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	「ある画家による京都-西川純の素描」ギャラリートーク 京都文化博物館（ギャラリートーク）2022年10月21日、11月18日
	「写真から探る学校校舎の歴史的価値」 京都市学校歴史博物館（講演）2023年2月19日

4. 特記事項（本年度のみ）

<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会「五劫のすりきれ」キュレーション（展覧会企画）（京都文化博物館 1F 総合展示室、2022年9月24日-10月10日） ・展覧会「藤浩志展 龍の存在を無視できない」キュレーション（展覧会企画）（京都文化博物館 1F 総合展示室、2022年11月29日-12月11日） ・展覧会「ある画家による京都 西川純の素描」キュレーション（展覧会企画）（京都文化博物館 2F 総合展示室、2022年10月15日-12月11日） ・展覧会「続・戦後京都の「色」はアメリカにあった」キュレーション（展覧会企画）（京都文化博物館 2F 総合展示室、2023年2月4日-4月2日） ・地方自治体の文化政策に関する調査研究（委託事業）に関するアドバイザー（2022年度）
--